

長崎県・企業短期経済観測調査(短観)における調査対象企業の定例見直し

1. 調査対象企業の見直し

「短観」(全国企業短期経済観測調査)は、資本金2千万円以上の民間企業(金融機関を除く)を母集団とし、その中から調査対象企業を抽出する「標本調査」と呼ばれる手法を採用している。短観では、経済実態をできるだけ正確に把握するため、母集団の情報の更新に合わせて、調査対象企業を定例的に見直すこととしている。

今般、総務省「平成26年経済センサス-基礎調査」にもとづく最新の母集団(約22万社)を対象にして、調査対象企業の定例見直しを実施した。

2. 見直しの内容と長崎県・企業短期経済観測調査への影響

調査対象企業の見直しは、新しい標本設計方法の下で行った¹。新しい標本設計方法では、母集団合計の推計に当り企業をグループ化する際に用いる基準として、従来雇用者数を用いていたものを売上高に変更した。これは、統計精度の改善と調査対象企業全体でみた回答負担の軽減を同時に達成することを狙いとしたものである。

今回の見直しを受けて、長崎県・企業短期経済観測調査(短観)の調査対象企業数は、2017年12月調査時点の138社から139社となった。本日公表の2018年3月調査より、新ベースの調査対象企業での調査となる。

今回の調査対象企業の見直しに伴い、2017年12月調査と2018年3月調査の間にはデータの不連続が生じることになる。このデータの不連続に伴う「段差」を定量的に評価するために、2018年3月から新たに集計対象となる企業に対して、2017年12月時点で予備調査を行い、そのうえで、2017年12月調査の結果を新ベースの調査対象企業をもとに再集計した。これを旧ベースでの集計結果と比較した結果は別紙に示したとおりである。

3. 2018年3月調査の公表資料におけるデータの取扱い等

2018年3月調査結果において2017年12月調査からの変化を表示する場合には、比較対象としての2017年12月調査データは新ベースを使用する。なお、2017年12月調査のデータについては、新旧両ベースのものが存在することになるが、新ベースのデータは参考値として取扱う。

以 上

¹ 新しい標本設計方法については、『『経済センサス』を受けた短観の標本設計見直しについて』(2016年8月17日、日本銀行調査統計局)を参照。

調査対象企業の定例見直しによる新旧ベース比較対照表(2017年12月調査結果)

1. 業況判断D.I.

(「良い」-「悪い」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|------|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | 15 | 8 | 15 | 8 |
| 製造業 | 6 | 2 | 6 | 2 |
| 非製造業 | 20 | 11 | 20 | 12 |

2. 事業計画

(1) 売上高

(前年度比・%)

| | 旧ベース | 新ベース |
|------|----------|----------|
| | 2017年度計画 | 2017年度計画 |
| 全産業 | ▲ 2.7 | ▲ 0.1 |
| 製造業 | ▲ 6.9 | ▲ 6.9 |
| 非製造業 | ▲ 0.4 | 2.7 |

(2) 経常利益

(前年度比・%)

| | 旧ベース | 新ベース |
|------|----------|----------|
| | 2017年度計画 | 2017年度計画 |
| 全産業 | ▲ 19.8 | ▲ 10.0 |
| 製造業 | ▲ 39.5 | ▲ 39.5 |
| 非製造業 | ▲ 0.7 | 5.9 |

(3) 設備投資

(前年度比・%)

| | 旧ベース | 新ベース |
|------|----------|----------|
| | 2017年度計画 | 2017年度計画 |
| 全産業 | 3.4 | 3.9 |
| 製造業 | ▲ 28.4 | ▲ 28.4 |
| 非製造業 | 36.6 | 37.7 |

(4) 研究開発投資額

(前年度比・%)

| | 旧ベース | 新ベース |
|------|----------|----------|
| | 2017年度計画 | 2017年度計画 |
| 全産業 | 15.0 | 15.0 |
| 製造業 | 19.1 | 19.1 |
| 非製造業 | ▲ 1.6 | ▲ 1.6 |

3. 製商品サービス需給判断D.I.(製造業)

(「需要超過」-「供給超過」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|-----|------|------|------|------|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 製造業 | ▲ 17 | ▲ 13 | ▲ 17 | ▲ 13 |

4. 製商品在庫水準判断D.I.(製造業)

(「過大」-「不足」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|-----|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 製造業 | 6 | — | 6 | — |

5. 仕入価格判断D.I.

(「上昇」-「下落」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|------|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | 27 | 31 | 27 | 31 |
| 製造業 | 21 | 32 | 21 | 32 |
| 非製造業 | 31 | 30 | 31 | 30 |

6. 販売価格判断D.I.

(「上昇」-「下落」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|------|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | 3 | 6 | 3 | 6 |
| 製造業 | ▲ 2 | ▲ 4 | ▲ 2 | ▲ 4 |
| 非製造業 | 6 | 12 | 6 | 12 |

7. 生産・営業用設備判断D.I.

(「過剰」-「不足」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|------|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | ▲ 1 | ▲ 1 | 0 | 0 |
| 製造業 | 9 | 7 | 9 | 7 |
| 非製造業 | ▲ 6 | ▲ 5 | ▲ 6 | ▲ 5 |

8. 雇用人員判断D.I.

(「過剰」-「不足」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|------|------|------|------|------|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | ▲ 37 | ▲ 40 | ▲ 37 | ▲ 40 |
| 製造業 | ▲ 17 | ▲ 17 | ▲ 17 | ▲ 17 |
| 非製造業 | ▲ 48 | ▲ 52 | ▲ 48 | ▲ 51 |

9. 新卒採用計画(6、12月のみ調査)

(前年度比・%)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|------|----------|----------|----------|----------|
| | 2017年度計画 | 2018年度計画 | 2017年度計画 | 2018年度計画 |
| 全産業 | 4.2 | 2.5 | 7.4 | 3.7 |
| 製造業 | 8.0 | ▲ 18.9 | 8.0 | ▲ 18.9 |
| 非製造業 | 2.1 | 15.6 | 7.0 | 16.6 |

10. 企業金融

(1) 資金繰り判断D.I.

(「楽である」-「苦しい」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|-----|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | 13 | — | 13 | — |

(2) 金融機関の貸出態度判断D.I.

(「緩い」-「厳しい」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|-----|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | 26 | — | 26 | — |

(3) 借入金利水準判断D.I.

(「上昇」-「低下」・%ポイント)

| | 旧ベース | | 新ベース | |
|-----|------|-----|------|-----|
| | 最近 | 先行き | 最近 | 先行き |
| 全産業 | ▲ 7 | 0 | ▲ 7 | 0 |